

研 究 論 集

第 十 八 卷

前 卷 目 次

第 17 卷

枕冊子前田家本の本文について……………	田中重太郎……………	一	右から
親鸞における往生と実存……………	中西智海……………	一一	
織物の諸欠点について……………	白取吉敏……………	128	左から
炭化水素資化性酵母KY-11に関する研究……………	小原国彦……………	25	
G. GABRIELI の編曲について……………	辻井英世……………	33	
J. S. Bach におけるフーガとは……………	中山明慶……………	49	
踊りのリズムとターラ……………	大谷紀美子……………	65	
「近畿ならびにその影響圏におけるわらべうたの音楽学的研究」について……………	酒井紀美子……………	87	
森本茂著……………	西島恵子……………		
書評 「伊勢物語論」を読んで……………	上坂信男……………	二五	
最上潤訳……………		114	
自己革新……………	神田美年子……………	二七	
(マナーを克服するための考え方)原著 J. W. Gardner……………		110	
彙報……………		二九	
		108	

沼波守教授（元国文学科々長）

昭和四十四年十月二十九日御逝去なされた。享年七十七歳。十月三十日御自宅に密葬され、のち名古屋において本葬をなされた。

先生は第一高等学校を御卒業後、東京帝国大学国文学科に御入学、大学御卒業後は中央大学予科教授・天理女子専門学校教授・国立北京師範大学大学院教授をなされ、その他、戸板裁縫学校高等師範科・帝国女子専門学校・日本大学予科・東京家政専門学校・法政大学高等師範部国漢文科・千代田女子専門学校国文科の講師を御歴任なされ、昭和二十七年十月相愛女子短期大学国文学科教授として赴任された。それより十六年、本校において主に日本文学史（近世文学）の講義をなされた。

また、先生の業績の主なもの挙げると、平凡社大百科事典の完結まで、国文学関係の項目撰定ならびに執筆者撰定の事に従事され、平凡社大辞典では編集主任として、その重責を果たされ、校註 日本文学大系（国民図書株式会社刊）、校註 国歌大系（国民図書株式会社刊）では、頭註・解題・梗概などを執筆され、日本文学大辞典（新潮社刊）では、歌舞伎の項を受け持たれるなど、多くの業績を残され、生涯学界に貢献なされた。

先生は、また、高血圧でお体が御不自由になられるまでは、大へん健脚でいらつしたので、有志の学生と、よく文学散歩に出かけられ、先生特有の気品のある東京弁で熱心に説明をなされた。歌舞伎に御造詣深くいらつした先生は、学界においてだけでなく、先生御自身歌舞伎役者にも惜しいほどの、あの端正な御容姿で、歌舞伎の台詞も声音も女人の方に劣らぬほどのお腕前であつたのも、今はなつかしい思い出となつた。帝国大学時代の御学友久松潜一文学博士も、先生のお体のことを御心配されていらつしたが、美しい紅葉が夕陽に映えて散るごとく、秋も深まる頃にながの旅路につかれました。心より先生の御冥福をお祈りして止みませぬ。

塙 雅寿 教授

昭和四十五年一月十五日、腹膜炎の為、京都府立医大附属病院で御加療中急逝なされた。間接的な病因は直腸ガンとのこと。享年七十八才。

先生は京都府北部（丹後）の御出身で、大正十五年京都帝国大学（現京都大学）理学部化学科を御卒業後、京都師範学校（現京都教育大）の教頭として教育に勤しまれ、その後再び昭和十四年京都帝国大学理学部生物化学教室に於て御研究に専念されました。この間、「酵母の生理化学的研究」その他、多くの研究成果を得られました。

その後大阪市役所市視学督学課に勤務され、続いて大阪市立都島高等工業学校に勤務、（この時高等官三等を得られました。）同時に相愛女専にも非常勤講師として就任されていりました。

次いで大阪市立大学理工学部に移られて御停年退職され、昭和二十八年十二月相愛女子短期大学に専任として御就任。以来多年の間科学者として、又教育者として、女子教育に多大の貢献をなされました。先生の講義は教卓実験、スライド、掛軸を用いた、綿密な、そして独特の風格ある教授法で行われ、永年の御経験と教育への並々ならぬ御熱情がそこにあり／＼とかがざわれました。御世界の際、勲四等瑞宝章を受領され、多年にわたる御功勞に対し表彰されました。

彙報

音楽学部

昭和四十五年度開講科目・講義題目(音楽学部)

一般教育・教職関係 (学部、短大共通)

学会発表

橘 覚勝 教授

本年(昭和45年)九月九日―十一日は、大阪で開催の国際高年者会議において、実行委員と同時に幹事長として、そのプログラムの作成ならびにシンポジウム(老人の孤独感)の司会に大いに尽力した。なお著者「老年学―その問題と考察」は十二月上旬の予定で、且下校正をいそいでいる。

岡 邦俊 教授

一、昭和四十五年十月十一日、早稲田大学に於ける日本宗教学会学術大会にて、「浄土真宗とキリスト教における代受苦思想」

中西 智海 助教授

「平和論と佛教徒」(伝道院紀要十号平和問題特集) 昭和四十五年五月

平和論の教学的研究は仏教特に真宗においてあまり見当らない。本論文は仏教特に真宗の平和論に対する基本的姿勢について論じてみた。

「現代教学の一視点」(『真宗教学研究』〔著書〕の分担執筆) 昭和四十六年二月

教学の現代化が叫ばれて既に久しい。本論文は真宗教学の現代化への一視点を時間論と、還相廻向論を中心に論じてみた。

〔一般教育科目〕

宗 教

西 洋 文 学

歴 史

心 理 学

生 物 学

〔保健体育科目〕

体 育 実 技 Ⅰ

〔外国語科目〕

英 語

英 語

ド イ ツ 語

フ ラ ン ス 語

〔教職専門科目〕

教 育 心 理 学

教 育 原 理

道 徳 教 育 の 研 究

器 楽 合 奏

〔共通専門科目〕

和 声 法

〃

〃

〃

对 位 法

音 楽 通 論 (M C 以 外)

岡 邦 俊

斎 藤 美 美 子

木 場 集 三

糸 魚 川 直 裕

奥 野 春 雄

長 野 孝 男

久 志 本 秀 夫

藤 原 怜 子

目 片 ミ サ ラ

木 村 恵 子

橘 覚 勝

秦 博

品 川 三 郎

大 橋 博

鈴 木 滋 子

鈴 木 英 明

中 野 和 子

大 橋 博

大 橋 博

大 橋 博

大 橋 博

大 橋 博

大 橋 博

大 橋 博

哲 学

法 学

科 学 概 論

生 活 科 学

体 育 講 義

英 語

ド イ ツ 語

イ タ リ ア 語

指 揮 法

教 科 教 育 法

教 育 実 習

和 声 法

〃

〃

〃

和 声 法

音 楽 通 論 (M C)

海 辺 忠 治

中 山 勲

平 島 達 司

和 田 政 雄

長 野 孝 男

目 片 ミ サ ラ

斎 藤 美 美 子

久 志 本 秀 夫

齋 藤 美 美 子

久 志 本 秀 夫

東 儀 祐 二

品 川 三 郎

秦 博

東 儀 祐 二

品 川 三 郎

秦 博

山 田 光 生

金 田 雄 志

飯 島 英 嗣

竹 内 典 子

仲 芳 樹

仲 芳 樹

仲 芳 樹

辻 井 英 世

ピアノ(副科)

石橋 信子	小林 とし	志賀宗三郎
市川 伸子	津曲 滋子	山本 暎子
伊奈 和子	山本 数子	内田 脩子
梁瀬 律子	西川 恵美	沢村千栄子
出口美智子	千葉みどり	南部 敦子
在田 洸子	長崎 照子	滝川栄津子
前田 道子	羽田久美子	
久保田清二	福山 藍子	

オルガン(副科)

弦楽器専攻実技

ヴァイオリン	辻 久子	ヴァイオリン	東儀 祐二
ウクレレ	鷺見 三郎	ウクレレ	東儀 幸
ウクレレ	西田 秀雄	ウクレレ	吉永 清子
ヴァイオリン	三輪 長雄	チェロ	井上 頼豊
コントラバス	米沢 宏	ハープ	吉野 篤子

弦楽器(副科)

ヴァイオリン	吉永 清子	ヴァイオリン	木村 和子
ウクレレ	川原 順子	ウクレレ	上条 尚人
ヴァイオリン	三輪 長雄	ヴァイオリン	上条 尚人
ウクレレ	井上 頼豊	チェロ	日比野忠孝
コントラバス	米沢 宏	ハープ	吉野 篤子

管楽器専攻実技

フルート	若林 正史	リコーダー	若林 正史
オーボエ	岩崎 勇	クラリネット	北爪 利世
クラリネット	喜田 賦	ファゴット	三原 泰三
ホルン	横井 逸郎	トランペット	椿 弘
トロンボーン	芝辻 宣雄	リコーダー	若林 正史
管楽器(副科)		フルート	川口勝治郎
リコーダー	若林 正史	クラリネット	菱川 徹

人 事

○ 新任

大谷 紀美子 専任講師
かねて本学作曲学科音楽学専攻専任助手のところで四十五年四月一日付にて同学科専任講師に任用される。

和 田 政 雄	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	生活科学担当
平 島 達 司	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	科学概論担当
糸 魚 川 直 裕	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	心理学担当
長 崎 照 子	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	器学科ピアノ担当
前 田 道 子	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	器学科ピアノ担当
下 村 正 彦	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	作曲学科作曲担当
和 田 安 教	非常勤講師	昭和四十五年八月一日付	器学科セロ担当
廣 野 嗣 雄	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	器学科オルガン担当
菱 川 徹	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	器学科管楽器担当
竹 内 典 子	非常勤講師	昭和四十五年四月一日付	作曲学科和声担当

中野 和子 非常勤助手 昭和四十五年四月一日付 作曲学科和声担当
 藤 繪 淳子 非常勤助手 昭和四十五年四月一日付 器楽科弦管楽器担当

○ 退任

藤 原 伶 子 非常勤講師 昭和四十五年十月一日付 作曲学科音楽史担当
 品 川 伶 子 非常勤助手 昭和四十六年一月十日付 器楽科(フルート)

○ 公開講座

◎世界的に著名なフランスの現代作曲家アンドレ・ジョリベ氏を迎え、去十月五日午後二時より本学講堂にて公開講座が開かれた。これは本学及び関西音楽協会との共催に依るものである。当日は本学若林講師、日比野講師らによって氏の作品が紹介された他、作曲公開レッスンには作曲専攻四回生奥本順子さんの作品等が採り上げられた。

当日のプログラム

(1) 挨拶 本学学部長 仲 芳 樹

(2) ジョリベ氏の作品の演奏と紹介

○Incantation "Pour que l'image devienne symbole"
 pour flute seule フルート 若林 正史

○ Mana 4人

Beaujolais
 L'Oiseau
 La Chèvre
 La Vache
 Pégase

ピアノ 沢村 千栄子

(3) 作曲レッスン

(A) フルートとチェロとピアノによる気まぐれな会話

フルート 奥本 順子 作曲
 チェロ 若林 正史
 ピアノ 日比野 忠孝
 奥本 順子

(B) 二つのフルートの為のカリグラフィ

乾 堯 作曲
 第一フルート 北山 隆
 第二フルート 若林 正史
 以上

◎西独ダルムシュタット音楽学校教授ライナー・ホフマン氏を迎え、伴奏法公開講座が十月十五日本学にて開かれた。午前中は「L11」にて門屋講師(声楽)と伊奈助教がリヒアルト・シュトラウスの、六つの歌曲より *Statten*、と *Zueinung* を、又横川講師(声楽)と羽田講師(ピアノ)がブラームスの *„Immer leiser wird mein Schummer“*、シューベルトの *„Ganymed“* の各曲をテキストにそれぞれプライベートレッスンを受講され、午後より会場を講堂に移して講義と公開レッスンを本学学生のために行われた。公開レッスンにおける出演者及び曲目は次の通りである。

(1) 講義 Mozart An Chloë
 Mozart Abendempfindung

山田 紀久子 助手(声楽)

(2) 公開レッスン

Schuman Nussbaum 三宅 千都(四回生声楽)

Mozart Das Veilchen 伴奏 青木 伴子(四回生ピアノ)

R. Strauss Morgen 伴奏 塩田 文代(四回生声楽)

Schuman Mondnacht 伴奏 浦谷 真知子(四回生ピアノ)

市川 年子(四回生声楽)

西村 惇子(四回生ピアノ)

Schuman Mondnacht 伴奏 松本 裕子(四回生声楽)

田中 和子(四回生ピアノ)

◎去十一月十五日、本学主催の公開講座として発声研究会が開催された。これは声楽分科会が中心となって企画立案され、発声に関する研究発表や、発声時に

おける声帯の運動を撮影した珍らしい学術映画が上映されるなど、斯方面における貴重な成果が披露され参会者に感銘を与えた。以下が当日のプログラムである。

- (1) 挨拶 市来崎 のり子
- (2) 講演 第九回国際音楽教育会議 (ISME) に参加しての感想 石塚 清

(イ) ミュンヘンのオペラ・フェスティバル聞き歩き 宮原 卓也

- (3) 実験発表 変声期の中学生の発声指導法の体験発表 奥谷 忠彦
- (4) 講演 学生・生徒の発声指導に効率を高める方法 柴田 睦陸

(5) 映画 声帯の運動

(6) 質疑応答 司会 佐々木 行綱

○演奏旅行

四十五年度演奏旅行は兼てより大橋教授を中心とした演奏委員会のメンバーに依って企画されていたが、十一月二十九日より十二月六日迄、九日間に亘って、北九州を中心に実施された。この間姉妹校を始めその他学校関係を中心に音楽法を含め七ヶ所に演奏会を持った。又今回は四回生の他に本学オーケストラの学生も同行、コーラスに加えて多彩なプログラムを編成することができた。演奏会日程及び参加人員については左記の通りである。

十一月三十日	午後一時	法要と鑑賞	鎮西女子学園
十一月三十日	午後六時半	一般演奏会	福岡明治生命ホール
十一月 一日	午前九時 午後十一時	法要と鑑賞	筑紫女子学園
十二月 二日	午前十時半	法要と鑑賞	佐賀菴谷学園
十二月 三日	午前十時四十分	成道会法要	筑紫短大
十二月 三日	午後二時	鑑賞	福岡第一高校

十二月 四日 午後一時 法要と鑑賞 伊万里学園
参加メンバー

学生、四回生 五十二名 オーケストラ関係学生、十八名
参加教員、大橋博、林雄一郎、東儀祐二、椿弘、久保田清二、瀧野滋子、山田紀久子(研究生)、藤田淑子、堀宏至、川原順子

○演奏会

◎相愛女子大学新人演奏会

本学卒業生の為に与えられる演奏会として昨年来実施されている相愛女子大学新人演奏会が本年も十月九日、毎日ホールにおいて開かれた。本年は卒業後二ヶ年の卒業生の中から選ばれた六名の人達が出演した。当日のプログラムは左記の通りである。

ソプラノ独唱 池原 トシエ

パルシコ 帆 船

別れの歌

天使と共に

ピッツェッティ 生命は逃げさり 一時ももどらない

あんなに やさしく鳴いている あの鶯は

我が想いを 天に運ぶ……

ピアノ独奏 吉田 啓子 ピアノ：河村 浩子

ベートーベン ソナタ 第二六番 変ホ長調 作品八一の a 告別

アダーショ

アンダンテ・エスプレッシヴォ

ヴィヴァーチッシマメンテ

メツォソプラノ独唱 羽場 喜代子

ブラームス 八つのジプシーの歌

クラリネット 中村 茂子 ピアノ：碓 英子

クラリネット 協奏曲 イ長調 K六二二

モーツァルト独奏

アダージョ
ロンド・アレグロ

ピアノ独奏 青柳直子

シヨパン ソナタ 第二番 変ロ短調作品三五

グラーヴェ・ドッピオ・モヴィメント

スケルツォ

レント・マルシュ・フエネーブル

プレスト

ソプラノ独唱 山田紀久子

モーツァルト

夕べの想い

すみれ

クロエによす

歌劇「アンドレア・シェニエ」より
なくなった母を

レオンカヴァッロ 歌劇「道化師」より

鳥の歌

ピアノ：戎 洋子

◎第十二回相愛オーケストラ定期演奏会

去十一月二十一日厚生年金会館中ホールにおいて開催された。本年は常任指揮者の東儀教授の他に森正氏を迎え、又ソリストとして、本学の卒業生でもある山田助手が出演した。なおこの演奏会は前掲した新人演奏会と共に大阪府市共催になる大阪文化祭に参加したが、特に本年は長年にわたる本学園オーケストラの地道な活動の実績と当日の演奏技能の優秀なることが認められ多数の参加演奏会を斥けて、洋楽部門における大阪文化祭賞を受けた。受賞式は十二月二十六日日本町国際ホテルにて行われ、演奏委員長大橋教授が代表して出席した。プログラムは左の通りである。

(1) ヴィヴァルディ 合奏協奏曲

指 揮 東 儀 祐 二
バイオリン 細 谷 有 紀
セ ロ 金 戸 久 枝
チェンバロ 戎 洋 子

(2) バルトーク

弦楽のための四つの小舞曲と六つのハンガリア民謡

(3) スーク

弦楽の為のセレナーデ作品六

(4) ベートヴェン

交響曲第二番二長調作品三六

(5) ヴェルディ

歌劇「オテロ」から

(6) グリンカ

「柳のうた」

プッチーニ

歌劇「マノン・レスコー」から
「ひとり寂しく」

(7) グリンカ

歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

(8) ヴィヴァルディ

「夕べの想い」

◎第十一回新人演奏会 (関西地区大学音楽学部卒業生による)

関西音楽大学協会主催になる新人演奏会が五月七日厚生年金会館大ホールにて開かれた。本学からは、四十四年度卒業生のうちより佐田中子(ヴァイオリン)。西居民子(声楽)、吉田啓子(ピアノ)の三人が出演した。本学関係の演奏者及び曲目は次の通りである。

ヴァイオリン独奏

サラサーテ 「スパニッシュダンスⅢ」

アンダルシアのロマンス

ソプラノ独唱

ヴェルディ 歌劇「アイダ」より

「夕べの想い」

「ひとり寂しく」

ピアノ独奏

プロコフィエフ ソナタ七番作品八三より

二・三楽章

佐 田 中 子 伴 奏 服 部 真 美
西 居 民 子 伴 奏 戎 洋 子
吉 田 啓 子

◎昭和四十四年度卒業演奏会

日時—昭和四十五年三月二十四日 午後五時
場所—相愛講堂

富永 裕子	ピアノ	Themaud Variatio op. 72..... A. Glazunow	吉田 啓子
吉村 文字	ソプラノ	じつのおよぶなら(オネエラタ鶴作り)..... 団 伊玖磨	吉田 啓子
岡安 早苗	ピアノ	Thémé et Variations G. Fraue	伊玖磨
川上 幸子	ソプラノ	Damor sull' ali rosee (Il Trovatore) Verdi	布野 敦子
和田多起枝	ヴァイオリン	Concert sonata e minor Veracini	岡安 早苗
岩崎 純子	ピアノ	Sonata No. 6 op. 82 S. Prokofiev	Veracini
上辻 静子	メゾ・ソプラノ	Les lettres (Werther) Massenet	岡安 早苗
戎 洋子	ピアノ	Sonata op. 58 Chopin	早苗
清水 桂子	ソプラノ	Pace, pace mio Dio. (La Forza del destino) Verdi	戎 洋子
中西由利恵	ヴァイオリン	Concerto (第一楽章) Tschakowsky	久美子
近藤エヒメ	ソプラノ	Oh! quante volte oh! quante Bellini	洋子
		(I Capuleti e I Montecchi)	

千頭真理子	ヴァイオリン	Concerto (第1楽章) Brahms	布野 敦子
吉田 啓子	ピアノ	Sonata No. 7 op. 83 Prokofieff	敦子
		(第2・第3楽章)	
今中 由美	ソプラノ	Depuis le jour (L'aise) Charpanier	戎 洋子
佐田 中子	ヴァイオリン	Concerto (第3楽章) Tschakowsky	眞美
西居 民子	ソプラノ	Ritorna vincitor (Aida) Verdi	戎 洋子
中村 茂子	クラリネット	Konzert K. 622 Mozart	洋子
		(第1楽章)	
布野 敦子	ピアノ	Etude op. 25 No. 11 Chopin	Chopin
		ii) Ondine Ravel	Ravel

○昭和四十四年度音楽学専攻 卒業論文

下 間 麗

バードと同時代のイギリス鍵盤音楽について

—舞曲、特にバヴァーンとガリアードをめぐって—

新 名 和 子

Melody 感の発達の研究

—遊び場面における子どもの歌の分布—

○昭和四十四年度音楽学専攻 終了論文

岸 本 育 子

箏曲段物の研究

短大国文学科

著書・論文

田中 重太郎 教授

枕冊子前田家本の本文について

―「校本枕冊子」附卷所収前田家本逸文を中心として―

相愛女子大学 研究論集 第十七巻 昭和四十五年一月刊
相愛女子短期大学

清少納言と枕草子―後宮に統実した「をかし」の文学―

日本と世界の歴史 第八巻八十一世紀√ 昭和四十五年五月一日 学習研究社

森本 茂 助教授

「古今集による伊勢物語の生成」

〔平安文学研究・第四十五輯〕

伊勢物語各段の創作過程を究明することは、非常に複雑な多くの問題を持つて
いるのであるが、本稿では古今集を資料として改作、翻案されてきたとみられ
る和歌及び章段、たとえば第一段「春日野の」の歌、第九段「時知らぬ」の歌な
どについて考察した。

文学遺蹟めぐり

国文学科では定例の文学遺蹟めぐりを次のようにおこなった。

日 時 ― 昭和四十五年十月二十二日（木）

午前八時半〜午後五時

目的地 ― 志賀の里（大津打出浜・近江神宮・志賀都跡・浮御堂）

国文学科一年百八十一名、国文学科二年百名、研究科一名と付添教官八名。七
台のバスに分乗し、逢坂山を超え、大津打出の浜を通って近江神宮に参拝したの
ち、田中重太郎教授・中野恵海助教授による講義があり、訪れる人としてない静か
な境内で昼食をし、休憩の後、志賀の都のありし日を偲びながら堅田の浮御堂に
到着し、ちょうど満潮のさざなみ寄せる中に浮かぶ御堂を拝観し、琵琶湖大橋附

近で休憩して一路帰阪し、難波五時解散。

集中講義

日 時 ― 昭和四十五年十一月九日（月）

場 所 ― 八六二教室

講 師 ― 塩田良平文学博士

内 容 ― 近代文学「樋口一葉について」

能楽鑑賞会

定例の能楽鑑賞会を、つぎのようにおこなった。

日 時 ― 昭和四十五年十二月十一日（金）

午後一時〜午後四時

場 所 ― 大槻能楽堂

演 題 ― 能楽……「葵」

狂言……「棒縛り」

一年二二八名、二年一五五名と付添教官六名が参加。

○昭和四十五年度開講科目・講義題目

〔教職専門科目〕

教育原理 (二年)

教育心理学 (二年)

国語科教育法 (二年)

教育実習 (〃)

道徳教育の研究 (〃)

〔体 育〕 (〃)

体育講義 (二年)

体育実技 (二年)

秦 博 教授

橘 覚 〃

森本 茂 〃

永田 千恵子 講師

秦 博 教授

上嶋 芳武 講師

吉村 貞雄 〃

〔一般教育科目〕

宗教	人生と宗教	(二年)	岡邦俊	教授
〃	〃	(二年)	中西智海	助教授
〃	人生と仏教	(〃)	〃	〃
哲学	哲学とは何か	(二年)	海辺忠治	教授
〃	思想史	(二年)	〃	〃
歴史	日本思想史	(二年)	木場集蔵	講師
経済学	経済学	(〃)	河村宣介	〃
生物学	生物から見た自然観と人間生活	(〃)	水野寿彦	〃
〃	生物学概論	(〃)	奥野春雄	〃

〔外国語科目〕

英語	テキスト: Reading in English	(一年)	川端柳太郎	講師
----	--------------------------	------	-------	----

〔専門科目〕

文学概論	現代文学における愛と孤独について	(二年)	源高根	講師
国文学概論	〃	(一年)	田中重太郎	教授
国文学史	国文学史	(〃)	浅田善二郎	講師
〃	近代文学史	(二年)	中野恵海	助教授
国文学講読	上代(万葉集)	(〃)	寺内清之助	講師
〃	中古(枕冊子)	(〃)	田中重太郎	教授
〃	中世(平家物語)	(二年)	三谷幸子	講師
〃	近世(西鶴)	(〃)	飯田正一	〃
〃	近世(俳文学)	(二年)	松岡満夫	〃
〃	近代(近代小説)	(一年)	中野恵海	助教授
〃	(近代詩歌)	(二年)	山根賢吉	講師
国文学演習古今集	〃	(一年)	森本茂	助教授
〃	源氏物語	(二年)	柿谷雄三	〃
〃	方丈記	(〃)	草部了円	講師
国文学特殊講義 謡曲	〃	(〃)	三谷幸子	〃

国語学概論	〃	(一年)	鈴木一男	〃
国語史	奈良・平安時代	(〃)	門前正彦	〃
国語表現法	〃	(二年)	鈴木一夫	〃
国語学演習	国文法	(二年)	柿谷雄三	助教授
漢文学史	中国史を中心にした文学史	(〃)	笈久美子	講師
漢文講読	詩文精粹	(〃)	〃	〃
〃	六朝小説	(二年)	南部松雄	〃
言語学	言語学基本問題	(二年)	平秀道	〃
書道	「かな」(初歩から作品まで)	(二年)	榎原孝	〃
国文研究科	〃	(〃)	宮重万寿子	〃

上代文学講読	(万葉集)	阪口保	講師
中古文学講読	(清少納言枕冊子)	田中重太郎	教授
〃	(伊勢物語)	森本茂助	教授
中世文学講読	(建礼門院右京大夫集)	柿谷雄三	〃
近代文学特殊講読	(近代作家論)	塩田良平	講師
近代文学講読	(夏目漱石の三部作)	吉田孝次郎	〃
〃	(倉田百三)	今小路覚瑞	教授
近代文学特殊講義	(近代文学と宗教)	中野恵海	助教授
近代文学講義	〃	古田嘉雄	講師
書道	(書道史・実習)	宮重万寿子	〃

短大家政学科関係

論文・評論

神田美年子	教授(被服)
中野慎子	助手(〃)

大阪私立短期大学協会研究報告集(第六集)

身体障害者の衣服に関する研究

——肢体不自由児の衣服について——

(大阪私立短期大学協会昭和四十四年度助成金による報告)

山本 登美子 助教授 (被服)

△四十五年四月十二日 万国博お祭り広場に於て作品発表

(日本デザイン文化協会主催)

△四十五年五月号 発表機関、衣生活

題目 「五月のおしゃれプラン」

△四十五年九月十四日 毎日ホールに於て作品発表

(日本デザイン文化協会主催)

白取 吉敏 教授 (被服)

1、「欧米各国の消費者問題の実情について」。「私学研修」第四十九号 (昭和四十五年十二月一日) に在外研修論文として掲載。

2、「アメリカ・イサカ・コーネル大学」。「繊維製品消費科学」第十一巻第一号 (一九七〇年一月号) に掲載。

3、「コーネル大学を訪問して」。「衣生活」第十三巻第四号 (一九七〇年五月号) に対談記事を掲載。

学会発表

小原国彦・玉置ミヨ子 (食物)

昭和四十四年度日本家政学会に於て左記テーマ及び内容について発表した。

テーマ KY-11の塩環境におけるオレイン酸酸化について
要約 本菌は塩類に対する耐性がある程度具備し、従って海水を培地に利用してもオレイン酸をよく酸化させることが出来た。

昭和四十四年度日本栄養改善学会に於て左記テーマ及び内容について発表した。

テーマ 炭化水素資化性酵母KY-11の性状に関する研究——同定と高張下に於ける脂質資化性について——

要約 本菌は孢子を形成せずその Slide Culture に於ける所見及び糖の発酵・資化とチソン資化その他の諸性状から *Candida pelliculosa* と推定し、本菌が炭素源を資化する状況は塩類の種類及び濃度によってそれぞれ特異的な傾向を示すことを認め、その特質を明らかにした。

村上 裕子 講師 (食物)

「栄養指導Ⅱ」 集団給食モデル献立集 (種子島千鶴子編集共著、昭和四十五年五月一日 建帛社)

○海外出張

白取 吉敏 教授 (被服)

「欧米における繊維製品消費科学の学術教育事情の調査」のため、昭和四十四年十月五日より三十四日間、ヨーロッパ各国と米國を歴訪後、帰國。(本出張は私学研修福祉社より在外研修員として、費用の助成を受けた)。

昭和四十五年度開講科目・講義題目

(「一般教育科目」)

宗 教	人生と宗教	(一年)	岡 邦 俊 教授
〃	〃	(〃)	中西 智 海 助教授
〃	〃	(二年)	〃
哲 学	哲学入門	(一年)	大 峯 〃
〃	哲学とは何か	(〃)	海 辺 忠 治 教授
〃	哲学は何のために	(〃)	尾 崎 和 彦 講師
〃	思想史	(二年)	海 辺 忠 治 教授
〃	西洋近世哲学史	(〃)	大 峯 〃
〃	哲学の諸 問題	(〃)	尾 崎 和 彦 講師

文学	平家物語	(二年)	三谷幸子	〃	計画的な家庭経済	神田美年子	教授	
〃	古典と現代文学	(二年)	吉田嘉雄	〃	家庭の管理と実習	高柳泰子	講師	
〃	素材と表現を中心とした日本文学の諸問題	(〃)	吉田弥寿夫	〃	家庭の管理と実習	林崎つゆ	〃	
音楽	生活と音楽	(二年)	仲川芳樹	教授	家族関係	久貴忠彦	〃	
〃	実技	(〃)	品川三郎	講師	住居学	麻生久弥	〃	
社会学	社会学概論	(〃)	稲岡順雄	講師	栄養学	和田政雄	教授	
社会学	社会学概論	(二年)	河村宜介	〃	栄養学Ⅰ	菅原重道	講師	
经济学	经济学	(〃)	中山勲	〃	栄養学実習	村上裕子	〃	
法学	法学	(〃)	吉村稔	〃	营养学	食べ物、食べ方等栄養的に判断できる力を与えるように栄養学の基本を講義すると同時に、実際問題との関連を考えさせる	飯塚義富	〃
〃	法学概論	(〃)	中山勲	〃	栄養生理学	栄養素の体内消長	富田朋介	教授
〃	日本国憲法	(〃)	山本勇	〃	〃	〃	横山広之	講師
日本国憲法	〃	(〃)	田中昭子	〃	栄養病理学	〃	富田朋介	教授
生活科学	一般化学・有機化学・生化学	(二年)	川合浩一	〃	〃	〃	小原国彦	教授
化学	化学概説	(二年)	田中昭子	〃	食品化学	〃	奥野春雄	講師
生物学	一般物理学	(二年)	小森誠一	〃	食品化学実習	〃	小原国彦	教授
生物学	生命現象の科学	(二年)	大西昭男	講師	食品材料	食品材料学通論	〃	〃
〔外国語〕	〃	(二年)	多田敏男	〃	応用微生物	〃	〃	〃
英 語	〃	(〃)	上嶋芳武	講師	食品加工貯蔵学	〃	〃	〃
〔体育〕	生活と体育	(〃)	吉村貞雄	〃	食品学実習	〃	〃	〃
体育講義	〃	(〃)	森山和美	講師	公衆衛生学Ⅰ	〃	〃	〃
体育実技	〃	(〃)	高柳泰子	〃	衛生学Ⅰ	〃	〃	〃
〔専門教育科目〕	家庭管理及び家庭経営	(〃)	森山和美	講師	食品衛生学	食中毒・食品衛生法に関して	〃	〃
〃	家庭の経営と管理	(〃)	塩野緑子	教授	栄養指導	理論及び実習	〃	〃
〃	家庭の管理	(〃)	森山和美	講師	給食管理	理論と学内実習	〃	〃
〃	計画的な家庭経済	(〃)	〃	〃	調理	〃	〃	〃

調理科学 食品の調理科学並びに調理の科学
 食糧経済 食糧に関する需要・供給・流通
 育 児
 社会福祉
 学校保健
 家庭機械及び家庭電気
 被服学
 被服構成及び実習 和裁
 被服学 洋裁
 被服史 日本の被服史
 服飾美学 服飾美学の根本的問題
 衣料学 被服等の繊維製品に関する原材料学
 衣料学
 染色学
 被服整理学
 意匠学
 手芸
 生理学

塩野 緑子 教授
 林崎 つゆ 講師
 村上 裕子
 高柳 泰子
 宮田 康治
 西村 文男
 中垣 昌美 講師
 高階 義登
 木下 邦夫
 白取 吉敏 教授
 森山 和美 講師
 渡辺 かねみ
 森重 定子
 神田 美年子 教授
 山本 登美子 助教授
 仁木 久枝 講師
 手塚 唯聴
 白取 吉敏 教授
 鈴木 国夫 助教授
 遠藤 啓 講師
 伊藤 澄子
 鈴木 国夫 助教授
 麻生 久弥 講師
 山本 富佐子
 山住 とし子
 富田 朋介 教授

〔教職専門科目〕

教育原理
 教育心理学
 教科教育 法家庭科教育法
 保健科教育法
 教育実習
 道徳教育の研究
 教授 小原 国彦
 白取 吉敏
 秦 博 教授
 松浦 伯夫 講師
 寛田 知勝
 橘 覚勝 教授
 糸魚川 直祐 講師
 塩野 緑子 教授
 北島 タキ 講師
 上田 照代 講師
 永田 千恵子
 秦 博 教授
 松浦 伯夫 講師
 寛田 知義

《短大人事異動》

教授 白取 吉敏
 ○ 新任 (専任者のみ)
 助教授 鈴木 国夫 昭和三十五年四月一日付 衣料学・染色学 被服整理
 講師 庄司 ユリ子 昭和三十五年四月一日付 家庭経営(実習)
 講師 森山 和美 昭和三十五年四月一日付 家庭経営・和裁
 助手補 青木 繁美 昭和三十五年四月一日付 (調理研究室)
 助手補 岩佐 聡子 昭和三十五年四月一日付 (洋裁研究室)
 助手補 木田 優美子 昭和三十五年四月一日付 (化学・物理研究室)
 助手補 溝渕 淑恵 昭和三十五年四月一日付 (国文学研究室)
 助手補 宮崎 慶子 昭和三十五年九月一日付 (和裁研究室)

○退職

助手	講師	助手	助手
補師	東谷	水嶋	辻
小谷	サトル	志満子	順子
玲子			
	昭和四十五年八月三十一日付	昭和四十四年五月三十一日付	昭和四十五年三月三十一日付